

知床羅臼写真コンテスト 2020

受賞者発表

知床羅臼写真コンテスト 2020 に多くのご応募頂きありがとうございました。
厳選なる審査の結果、各賞が決定いたしましたので、ここに発表致します。

<最優秀賞>

田中道子 「羅臼の海でこんにちは」

<生き物部門賞>

三船昭浩 「オオワシの雪上決戦（決着は如何に）」

<自然・風景部門賞>

早川徳幸 「朝日に映える」

<スナップ部門賞>

高橋 修 「いつかは逢えるよね」

<特別賞・知床羅臼町観光協会会長賞>

川崎幸廣 「野獣と花」

(一社) 知床羅臼町観光協会

応募総数 133 点

(生き物部門 79 点、自然・風景部門 32 点、スナップ部門 22 点)

審査員講評

【全体を通して】

今回は、星など特化した作品も多く応募されていた。賞には入らなかった良い写真がとて多くあった。年々、レベルがとても高くなっている。鷺、シャチ、シマフクロウだけではなく、キツネや鹿、カラスやカモメなどいろいろな物を被写体として選んでほしい。若い方の応募も多くあり来年度も今回の様な写真の応募を期待しています。

【最優秀賞】 田中道子 「羅臼の海でこんにちは」

親子のシャチが写っている非常に良いタイミングで撮影している。撮影している人、シャチを見て喜んでいる人、風景・自然・動物などすべてがそろっている。スナップ部門の中からの最優秀賞。ホエールウォッチングの1カットとしてのスナップ、自然、動物、緊張感でなくシャチが穏やかかかにもモデルになっている羅臼でなければ撮影できないとても良い写真。

【生き物部門賞】 三船昭浩 「オオワシの雪上決戦（決着は如何に）」

今回も応募数が多く、レベルが非常に高かった。その中でもこの写真は、雪が舞っていて迫力があり、オオワシの表情がはっきりととらえられていて素晴らしい。技術的にシャッターチャンスを良い瞬間でとらえている。ワシ以外の動物をうまく省略して、とても整理された写真になっている。

【自然・風景部門賞】 早川徳幸「朝日に映える」

太陽が出る前から美しい風景だったのが想像できる。朝日を高い位置からとらえることは珍しい。朝霧の中に海水面がのぞき、その海水面に朝日が写りこんでいるとても美しい穏やかな朝。国後島まで繋がっている素晴らしい風景の写真になっている。

【スナップ部門賞】 高橋 修「いつかは逢えるよね」

レンズ選択があっっていて、人を入れたとても良いスナップ写真。アングル、画角により、よりリアリティに表現できている。ビジターセンター内での撮影で他の展示物がある中、モデルの視線がシャチを見上げていてシャチに目がいく。切り取りが素晴らしく、普通の骨格標本に見えず、シャチが力強く今にも泳ぎだしそう。

【知床羅臼町観光協会会長賞】 川崎幸廣「野獣と花」

鮭を加えたヒグマの写真。ヒグマの周りには美しい花が咲いていて素晴らしい。

審査員

審査委員長 石井 英二

副審査員長 関 勝則

審査員 大野 貴史